

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことば音楽療法教室みそら(保育所等訪問支援)		
○保護者評価実施期間	7年 10月 14日	～	7年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 13人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	7年 10月 14日	～	7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 3人	(回答者数)	3人
○訪問先施設評価実施期間	7年 10月 14日	～	7年 11月 30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 13人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的な支援の方法をわかりやすく伝えることができる。 子どもの行動や支援方法について先生方と共有することで理解を深めている。	応用行動分析を学んでいる支援員が訪問することで問題行動を分析し、現場で実践しやすい支援内容を考えられるようにしている。また、先生方と一緒に考える姿勢を大切に現場での支援に活かしている。	訪問支援員が継続的に研修や学習を行い、スキルの向上を図っている。
2	先生方との信頼関係の構築に努める。訪問時には、先生方の思いを尊重し、丁寧なコミュニケーションを心掛けている。	信頼関係を大切に、支援内容を押し付けるのではなく、一緒に考える姿勢を大切にしている。 小さな変化や努力を認め合う言葉掛けを意識し、良い雰囲気づくりに努めている。	先生方が安心して相談できる環境作りを目指し、訪問支援員のコミュニケーション向上に努める。
3	デイサービスの療育時間をつかって、保護者と話す時間を設けやすい体制を整えている。気軽に相談できる環境があり、子どもの様子や支援の考え方を共有しやすいことが強みである。	保護者の話を傾聴し、思いを学校や園に伝えることで支援の方向性を統一できるよう心掛けている。	訪問支援員は学びを深め、より質の高い訪問支援員になれるよう努めている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者から訪問の依頼はあるが、訪問先の理解が十分ではない場合があり、受け入れ調整が難しいことがある。	学校や園が保育所等訪問事業の目的や支援内容を具体的に把握できていないことがある。この事業というものをもっと理解してもらえるように努める。	園や学校に対して、事業の目的や支援の内容を丁寧に説明し、理解を深めてもらえるようにする。
2	支援目的や活動内容の違いについて理解してもらうことが難しい場面がある。	集団生活の関わり方と個別療育の目的が混同され、ねらいが十分に伝わらないことがある。 一緒に考える姿勢を大切に、集団でもできることを先生方と一緒に考える。	先生方とコミュニケーションの土台を築き、安心して相談できる関係作りを意識して継続的に努める。
3			